

## 報道提供資料

平成26年9月2日

(お問合せ先)
高槻市保健所
担当： 森定 一稔
山下 茂信
電話 072-661-9332(保健予防課)
FAX 072-661-1800

## デング熱の国内感染症例について

平成26年9月2日（火）、市内の医療機関から直近に海外渡航歴がないデング熱患者（3例）の届出が保健所に提出されました。

患者の概要及び市の対応等について、以下の通りお知らせします。

## 1. 患者について

## (1) 概要

## ● 1 例目

- ・患者は本市在住の10歳代女性
- ・直近、海外渡航歴なし
- ・8月30日（土）から発熱等症状出現し、30日（土）、31日（日）と市内の医療機関を受診。31日（日）に市内の医療機関に入院
- ・症状は発熱のほか、発疹、頭痛。現在も入院加療中

## ● 2 例目

- ・患者は本市在住の10歳代女性
- ・直近、海外渡航歴なし
- ・8月31日（日）から発熱等症状出現し、同日、市内の医療機関を受診。9月1日（月）に市内の医療機関に入院
- ・症状は発熱のほか、発疹、関節痛、頭痛、後眼窩痛（こうがんかつう）。現在も入院加療中

## ● 3 例目

- ・患者は本市在住の10歳代女性
- ・直近、海外渡航歴なし
- ・9月1日（月）から発熱等症状出現し、同日、市内の医療機関を受診
- ・症状は発熱のほか、頭痛、リンパ節痛、悪寒。2日（火）入院

9月1日（月）、上記の血液検体を大阪府立公衆衛生研究所に搬入し、検査を実施したところ、2日（火）に3例共にデング熱の患者であることが確認できました。

なお、重症化の傾向はありません。

## (2) 推定感染地域

関係者調査の結果、本件患者の3名は8月下旬に東京都の代々木公園を訪れていました。うち1名は、その際に蚊に刺されたことを自覚しています。海外渡航歴がないこと、及び同公園での感染が疑われる事例が発生していることから、当該地域での感染の可能性が疑われます。

## 2. 本市の対応について

現在、本件患者について調査を継続中。

### 【参考】 デング熱について

#### (1) 概要

- ・蚊が媒介するウイルスによる疾患で、アジア、中南米、アフリカ等の世界の広範な地域で流行している。
- ・ヒトが感染しても、発症する頻度は10～50%で、発熱、頭痛、筋肉痛や皮膚の発疹等が症状として現れる。
- ・予後は比較的良好な感染症だが、まれに重症化することがある。
- ・ヒト（患者）—蚊—ヒトという経路で感染するため、ヒトからヒトに直接感染することはない。

#### (2) 症状

- ・突然の発熱、激しい頭痛、関節痛、筋肉痛、発疹等が出現する。
- ・潜伏期間(蚊に刺されてから、症状が出るまでの期間)は2～15日と言われており、多くは3日から7日で発症。
- ・まれに重症化し、出血やショック症状を発症するデング出血熱や、デング症候群に移行することがある。

#### (3) 治療法

- ・特異的な治療法はなく、対症療法が主体。
- ・現在のところ、有効な抗ウイルス薬はない。

#### (4) 予防法

- ・国内では、ヒトスジシマカがデング熱を媒介する可能性がある。
- ・蚊との接触を避け、刺されないようにすることが重要。
- ・実用化されたワクチンは今のところない。